

留学生を活用した English Writing Consultant

—バイリンガルキャンパスにおける留学生のリソース活用—

English Writing Consultant using International Students as Teaching Assistants

— Utilizing international students as a resource for Bilingual campus —

○森村 久美子¹
Kumiko MORIMURA

ヨルグ エントジンガー^{*1}
Jorg ENTZINGER

キーワード：TA、英語ライティング、留学生、バイリンガル

Keywords: Teaching Assistant, English Writing, International Students, Bilingual

1. はじめに

キャンパスの国際化に伴い、世界各国から東京大学へ入学する留学生の数は増加の一途をたどっており、平成24年実績では105カ国から約3000名の留学生が本学で学んでいる。各国を代表する優秀な留学生が多数訪れ一定期間滞在しているということは世界中の有能なリソースを一時預かっているようなものである。この有能なリソースを活用することを考えるのは、受け入れ大学、留学生自身双方にとって大切なことである。我々はそのリソースを英語ライティングに使えないかと考えた。

欧米の大学では必ずと言っていいほど存在するライティングセンターは、学生の課題や論文などのライティングの相談を受け、指導を行なうところである。構成員は主任教員と数人のスタッフ、それに Teaching Assistant (TA) から成っている。本学でもライティングセンターの設置が待たれるがなかなか実現は難しい。

国際工学教育推進機構・バイリンガルキャンパス推進センター・国際化推進部門(GWP)で2003年から工学系共通講義としておこなっている科学技術英語(アカデミック・ライティング)1)で評価のために提出させるライティングの課題を見ると、世界各地から来ている優秀な留学生はネイティブでなくても日本人学生の手本となるような文章を書く場合が多い。高校までの教育によるものと思われるが、この能力を活かして日本人学生を指導させれば、日本人学生のためになるばかりか、留学生たちにとっても誇りとなり、また生活の助けにもなる。そこで彼らをTAとしてEnglish Writing Consultant(ERIC)に登用することを考えた。

科学技術英語受講者の中から特に優秀な留学生を選抜し、ネイティブ講師による訓練を施し、先輩TAによる教育を受けさせてから実際の添削指導にあたらせる。ノウハウは代々継承され次学期へと繋がっていく。

ERICでは、学生の様々なライティングの相談に応じるが、依頼された書き物をただ添削するだけではなく、今後、学生たちが自分でも上手く書けるように根本的な指導をするように注意している。

スペシャル・イングリッシュ・レッスンのTAに留学生を登用したのを契機にGWPでは優秀な留学生の存在価値を重視し、部門内の各プログラムで留学生を活用している2)。アカデミック・ライティングを受講した留学生からERIC-TAを選抜するこのシステム3)は、日本人学生の英語ライティング力の向上と、留学生の能力の活用を同時に可能とするところに意味が有る。国際化時代の今、留学生を大学の一時のお客さんとみるのではなく有能なリソースとしていかに誇りを持たせて活用するかは、大学国際化の成否の鍵を握るものといえよう。



図 1. 国際化推進部門を中心とする各種プログラム間で留学生を活用し循環するシステム

2. 方法

次にERICの具体的な手順を紹介する。

2.1 TAの選抜と訓練

ERICの指導員としてTeaching Assistant数名を選抜

^{*1} 東京大学大学院工学系研究科国際工学教育推進機構

した。まず、科学技術英語（アカデミック・ライティング）を担当する教員がライティング課題において特に優秀な成績を挙げた留学生を選出し、その推薦を受けてTA候補者とする。彼らは面談の上、ERIC-TAとして登録され、一ヶ月間訓練を受ける。ネイティブ講師によるコーパスの使用法、その他ライティング指導に有益なサイトの説明を受け、さらに前年度のERIC-TAから指導を受ける。この間、顧客(customer)がいれば添削をしながらOJT(On the Job Training)を行なう。教材として下記の書物等を紹介した。

-How to write a great research paper (Simon Payton Jones)

-Whiteside's Group: Writing a paper, (George M. Whitesides)

2.2 実施要項

毎週火曜日の15時から16時、毎週木曜日の17時から18時の二回をERIC hourとして設定し、この時間帯にTAを二人ずつ配置。二人で相談しながらよりよい指導を行なう。一方、顧客はメールでアポイントメントをとりERICと日時を約束する。添削を頼むカスタマーはもともとメールで文書を送り、下見をしてもらう。当日は必ず執筆者本人がコンサルタントに来て、単に添削してもらうだけでなく、同じ間違いを繰り返さないように原理原則を教える。一回で終わらない場合は、2度までは続けてコンサルタントを受けることができる。

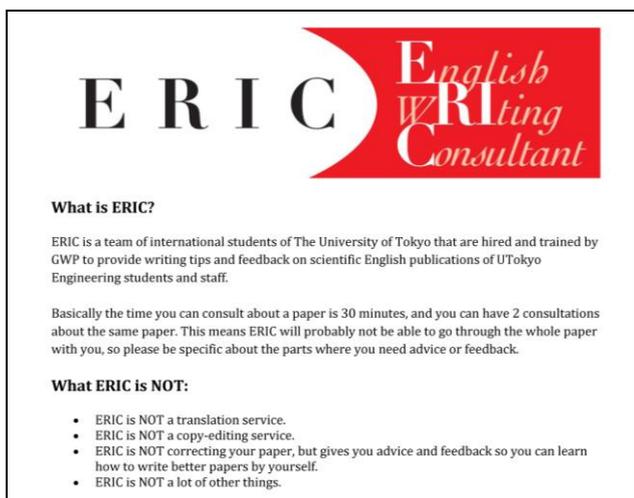


図2. ERICの案内

3. 結果および考察

ポータルサイトやガイダンスでのフライヤー配布など様々な手法で告知したが、研究科内で十分に知られているとは言い難い。だが、教員の紹介もあって顧客

も増加しており、一旦受講した顧客は非常に満足し、繰り返し利用することが多い。TAたちにとっても顧客が来る方が勉強になり、またモチベーションも高くなる。

表1. 年度別顧客数

年度	顧客数
2012	12
2013	15

以下にTAの日報を一部紹介する。

-Today we had a customer who was interested in checking a conference paper. His English writing was pretty good grammatically, however he wanted to make his 'Abstract' and 'Conclusion' parts more appealing. We gave him some suggestions based on the materials we learned in our previous TA sessions. He will edit his paper and come back next week for second evaluation.

-Ali and I spent almost an hour to review Niina's paper. It was only four pages long and with minimum number of mistakes. We corrected some typos, taught her the correct format of tables and figures, guided her on the usage of numbers in academic writing, and helped her to improve the readability of her sentences. We also advised her to check the format and style requirements of the journal and make necessary changes accordingly. At the end of our discussion, we told her that she could come again for another session if she wants.

-Second customer also had to submit a paper at an international conference. The language of paper was much better than the previous one. Just a few grammatical, or punctuation mistakes. However, the "Abstract" needed restructuring. So we advised him accordingly.

4. おわりに

このシステムを利用して、国際化プロジェクト内での留学生生活用の好循環をつくることのできた。しかし、まだまだ認知度が低いので今後さまざまな方法で認知度を上げていくことが課題である。

参考文献

- 1) 森村久美子、東大スペシャル・イングリッシュ・レッスンにおけるFD、工学教育第57巻、第3号、pp24-27, 2009.5
- 2) 森村久美子、東京大学工学部における英語教育、工学教育58巻3号、pp65-pp69, 2010.5
- 3) <http://gwp.t.u-tokyo.ac.jp/>